

鹿野の初春に「花」が咲く お花に本気出した文化祭、開催！



このイベントは、冬季を除き毎月開催される、KANOからがマルシェ内イベントとして開催されました。花をテーマにしたこの文化祭を開催した思いを、実行委員の荒木萌さんにつかがいました。

この間はとても暖かくなり、ついに春がきた、といった様子ですね。今月号の「えーる！」では、3月16日に旧大潮小学校で開催された「お花に本気出した文化祭」の様子をご紹介します。

周南市内在住の荒木さんが鹿野を訪れるようになって約2年。関係している団体が鹿野の古民家を使って活動していることがご縁になつたそうです。

介護福祉士として働くかたわら、絵手紙ボランティアなどの活動をされている荒木さんは、昨年、旧大潮小学校で開催された「大人が本気出した文化祭」にも参加。鹿野の中で、さまざまに恵まれました、と語ります。

そんな中、てんぐ巣病の周知活動などを進める団体「さくらの守人」を知り、その活動をみんなに知つてほしいという思いから「お花に本気出した文化祭」の企画がスタートしました。

これまでいろいろな人に助けられてきましたし、お世話になつた人への恩返しと、出店を考えているけれどもその場所が見つからぬ人を助ける、恩送りができます。同じように、このイベントに関わった皆さんのが日一日が、すてきな思い出になればと思います」

荒木さんの今後の活動にまなざします



「自分の好きな服を着ることのできる場所を作りたい」という思いから活動する「黒猫のクローゼット」のファッションショーがステージで行われました。



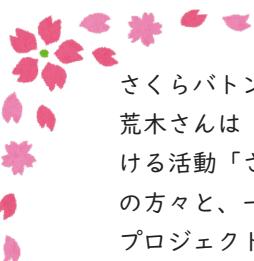
地元の「大潮田舎の店」は、イベント限定で、いなり寿司と桜餅を販売していました！ どちらもとてもおいしかったですよ。



「お花に本気出した文化祭」開催風景



会場の各所には、鹿野の特産品である手すき和紙「山代和紙」を使った造花や装飾が施されていました。和紙のやさしい風合いが、木造の会場によくマッチしています。



さくらバトンプロジェクト、進行中！

荒木さんは「さくらの守人」とも協力しつつ、山口県内の介護施設に桜の枝を届ける活動「さくらバトンプロジェクト」を進めていらっしゃいます。施設利用者の方々と、一緒に桜が咲くを見守ってほしい、という気持ちで続けられるこのプロジェクトでも、県内に「花」が広がっているんですよ。

